

---

【付録】 スライド 『Woman-Loving-Woman』

翻訳・朗読 かぐら・いなほ

---

(音楽)

いなほ 私はパット・ゴゼンバです。マリリン・ハンフリーズと私は、一九七七年にアニタ・ブライアンと他、保守派による同性愛者への攻撃に対して、このスライドを作りました。私たちは、レズビアンについての誤解と、その誤解から生じる経済的・社会的・政治的・影響を指摘しようと試みました。また、レズビアン文化を共有し、われわれの人生を紹介しようと思います。

かぐら 私はマリリン・ハンフリーズです。パットと私は、他のレズビアンがそうであるように、異なる道を通って、レズビアンになりました。彼女は六年間の結婚生活のあと、三十代でレズビアンとして自己を認識しましたが、私は十代で意識し始めました。このスライドで示すように、レズビアンの辿ってきた道を単純に分類化するのは難しいことです。

(音楽)

かぐら ある人々は、レズビアンを見たことも会ったこともないと固く信じていますが、実際にはそうではありません。私たちはどこにでもあります。ともに仕事をし、隣に住み、家族の一員でもあります。ときには母であり、娘であり、祖母であり、おばであり、そして姉妹でもあるのです。

レズビアンは感情的・性的に女に向かっていているという理由で、この男中心社会では場違いであると考えられています。レズビアンに対して多くの誤解があり、これらの誤解は、経済的・政治的・社会的・宗教的にわれわれの人生を抑圧しています。

(音楽、変わる)

かぐら 誤解一。本当のレズビアンは、本で読んだりテレビで見たりするのと同じである。

いなほ テレビで見たり、本のなかで読んだりする人々は、だいたいの場合、現実の人間とは違っています。さらに、異性愛者や同性愛者を誇張して描く一般の情報には、現実的なレズビアンの描写が欠けています。問題は、異性愛者は自分たちが誇張されていることを知ってはいるが、レズビアンもまた同様であることに気づかないでいることです。

かぐら 誤解二。レズビアンは病気である。

いなほ 何年間も心理学者は、刑務所か、病院にいるレズビアンを研究の対象としてきました。果たしてこれが公平と言えるでしょうか。もし世界中の心理学者が、刑務所か、病院にいる人々によってのみ代表されたなら、どうでしょう。

一九七三年と七五年に、アメリカ精神学会とアメリカ心理学会が精神病のリストから同性愛を除外したとき、ほんの少しだけ公平になりました。

かぐら 誤解三。レズビアンは男を嫌っている。

いなほ たいていのレズビアンは、男を嫌ってはいません。多くのレズビアンが、男と愛情関係をもったことがあったり、深い友情関係をもっています。異性愛でもレズビアンでも、ある女たちは男に対して強い感情的つながりを感じてはいません。しかしこれは、必ずしも性的好みに関係してはいません。

かぐら 誤解四。男といい関係をもてば、レズビアンは矯正される。

いなほ 実際に矯正されるものなど、何もありません。この男優位主義的なファンタジーは、その図々しさゆえに、アカデミー賞ものです。これは、女同士は満足しうる完全な性的関係をもつ

ことは不可能で、唯一、女の満足しうる人間関係は男である、という非常に誤った仮定にもとづいています。

かぐら 誤解五。レズビアンは、探さなければ見つけれない。

いなほ 正しくありません。もつとも信頼すべき調査によれば、常時、人口の少なくとも10%はレズビアンです。

かぐら 誤解六。すべてのレズビアンは、男役か女役の役割を演じている。

いなほ とくに一九四〇年代、一九五〇年代に、自らをレズビアンとして意識した少数のレズビアンは、男役、女役として自分を意識していました。この習慣は、今日では幾分残ってはいますが、一般的ではありません。女性解放運動は、男と女、異性愛者と同性愛者が従来の性役割からはみ出ても抑圧感をもたないで済むようにしました。

かぐら 誤解七。レズビアンは色情狂で、すべての女に欲情する。

いなほ 社会が一般的に、レズビアンを性的な面からとらえていることを考えれば、レズビアンが性的存在として第一に考えられても、驚くに当たりません。レズビアンがとくに性に興味をも

っているということを示した資料はありません。さらに、レズビアンは普通、恋人としてストリート上の女を求めません。主としてそれは、そのような関係の初めのころ起きる感情的な難しさのためです。

かぐら 誤解八。レズビアンは変態であり、子どもにとって危険である。

いなほ 性調査研究所の所長、ポール・ゲブ・ハードは、次のことを指摘しています。実質的には、女によって子どもが虐待されているケースはない。子どもの虐待は、この国では大きな問題であることは事実だが、調査によれば、ケースの大半が異性愛の男による女の子への虐待であり、それらの暴行の非常に多くのものが家庭内で起こっている。

かぐら 誤解九。レズビアンは不幸で、異性愛者になりたがっている。

いなほ ほとんどのレズビアンは、他の人たちと比べて不幸であるということはありません。レズビアンであること自体が問題であるレズビアンにとっては、それは正しいが、問題がレズビアンの生き方に本来的にあるのではなく、むしろ異性愛社会のレズビアンに対する反応にあるのです。

かぐら 誤解十。すべてのフェミニストはレズビアンであり、すべてのレズビアンはフェミニス

トである。

いなほ そのどちら間違っていません。フェミニズムの第二の波が起きたとき、その正体を暴露しようとした一般的なマスコミは、新しいフェミニストを揶揄する言葉を探し出そうとして、彼女らをレズビアンと呼びました。もちろん、多くの女たちはレズビアンではありませんでした。世界中のすべての女たちが、レズビアンやフェミニストと呼ばれることは軽蔑されることではないと気がついたとき、女たちに新しい世界が開かれていくでしょう。

かぐら 誤解十一。女たちがレズビアンになるのは、男に強姦されるか、暴行されるかしたためである。

いなほ もしこれが正しいなら、もっと多くの女たちがレズビアンになるでしょう。

かぐら 誤解十二。レズビアンは秘密主義で、閉鎖的である。

いなほ あるレズビアンは隠れています。当然のこととして、社会からの報復を恐れるためです。とはいえ、ゲイ解放運動と女性解放運動は、このスライドに登場した女たちのように、多くの女たちがレズビアンとしての自己認識をオープンにし、誇りをもつことを容易にしました。

(音楽 変わる)

かぐら これらの誤解ゆえに、ほとんどのアメリカ人が当然もっている権利を、レズビアンとゲイはもっていない。レズビアンは、女であること、同性愛であることで、二重の抑圧を受けている。そして、白人以外のレズビアンは、人種的偏見の三重の抑圧を受けている。

すべての州では、レズビアンであるために、合法的に仕事・住居・信用を否定されうる。全国ゲイグループのメンバーだったジン・オーレアリーは、次のように指摘している。われわれは、多くの地域において、政府の雇用から慣例的に拒否され、解雇されないための保障もなく、軍隊を免職され、移民を拒否され、子どもの養育権を奪われ、高い税を課せられ、居住権を認められず、あらゆる社会事業の恩恵から除外されている。

子どもの養育権に関する論争は、われわれにとって、とくに心が痛む問題である。マリー・ジョー・リーヤーと他の数え切れないレズビアン・マザーの闘いは、レズビアンに対する見え透いた偏見を明らかにした。幸いにも、最近のいくつかの裁判所の決定は、母親を性的存在としてではなく、全人格的に見るというように、少しは公平になってきたようである。

私たちのうちのある者は、レズビアンとして暴かれ、今まで築きあげてきたものを失うのではないかと恐れながら暮らしている。他の者たちは、抑圧に対して挑戦するもつとも有効な方法は、

人々にわれわれが何者であるのかを知らせ、また、われわれが今までも、そして今もしている途方もなく大きい社会的貢献を知らせることであると気づいている。

法律を変える闘いは重要である。われわれにとつての真の自由は、社会の態度の変化によつてのみ約束されるが、まず第一段階として、市民権の獲得は重要である。アメリカの一〇〇近い組織団体が、われわれの市民権獲得の闘いを支持している。アメリカ市民解放連合、アメリカ医学連合、アメリカ教師連盟、全国教育連盟、YWCA、NOW、アメリカ公共健康連盟、アメリカ図書連盟、アメリカ市民サービス委員会、アメリカバー連盟、キリスト教全国協議会。

(音楽、変わる)

いなほ レズビアンに対する差別は、しばしば宗教的基盤のうえに正当化されている。ユダヤキリスト教は、その教義の肯定的見方にも関わらず、その基盤はひどい性差別論理である。女の地位は明らかに二次的存在であり、レズビアンの尊厳はずっと否定されている。ユニテリアン万国教会を除いて、ほとんどの宗教団体は、今もレズビアンに対する強い否定的見方を保ち続けている。

一九六八年、ゲイのある者は、二万五千人以上のメンバーとともに、メトロポリタン・コミュニティ教会とクリスチャン教会を発足した。幾人かのレズビアンとゲイの男たちは、ゲイ・カトリ

ックであるゲイ・エピスコッパリアン・グループのメンバーであることを選んでいる。

完全な市民権を得るためにもっとも期待することは、われわれに社会的・政治的支持を与えるグループに、われわれ自身を組織化することである。一九五五年、ベル・マーチンとフィリス・ライオンによって設立されたブリティスの娘のような、全国的なグループは、多くのレズビアンにとって非常に重要な存在であった。この団体の支部は、全国の至るところにある。

あるレズビアンは、ゲイの男と組むことを選んだ。マサチューセッツのノースショア・ゲイ同盟は、政治的変革を求めて活動し、自己を教育し、社会的・政治的ネットワーク作りを進めている、レズビアンとゲイのグループである。

政治的色彩の強いグループの代表として、黒人のレズビアン・フェミニストのザ・コンバヒリバー・コレクティブがある。彼女たちの公約は、人種・性・異性愛・階級の抑圧に対して闘うことである。とくに果たすべき役割として、抑圧の構造は互いにつながっているという事実を基盤に、統合的な分析と実行を進めることとしている。

ニューヨークにあるレズビアンの歴史に関する記録保管所での、ジョアン・ネッスル、ジュディ・スクワルツ、デボラ・エデルの仕事は、顧みられることのなかったであろうレズビアンの、活力に満ちた歴史を保管することである。この調査と記録保管の仕事は、非常に重要である。わ

われわれは組織的に歴史の出版物から検閲されているのだから、われわれが強さと尊厳と普遍性を導きだそうとするとき、歴史的・伝統的観念をもつことは必要である。まさに過去を辿ることがかつてのわれわれを照らし出すように、われわれの現在の存在を強く意識することは、われわれを知るうえで重要である。われわれはすべての階級と人種を越えて、存在している。

(音楽、変わる)

かぐら われわれの作る関係は、異性愛者と同様、さまざまである。ある者はずっとカップルで暮らすか、またある者は一人で暮らしている。またある者は、カップルでない関係に専念して、異性愛社会の一对一の結婚というモデルは間違いであると感じている。またある者は、女と対等に、かつ愛し合える関係を作ろうと、新しい方法を模索している。

(音楽、変わる)

かぐら われわれの作る関係性を容易に分類化できないように、われわれのしている仕事も、またしかりである。われわれは精神科医であり、看護婦、教師、大工、額縁屋、造園建設業、情報技術者、出版人、料理人、学生、印刷屋、テレビ局で働き、旅行代理店で、調査研究所で、ラジオ局で働いている。臨床医、ビジネスウーマン、写真家、生物学者、計理士、グラフィック・アーティスト、テレビ制作者、ときに劇場で働き、われわれはあらゆる職種についている。

われわれの文化と芸術への貢献は、広い範囲に渡っている。パット・パーカー、スーザン・シェアマン、オードリー・ロード、アドリエンヌ・リッチ、レニー・ビビアンのような詩人であり、リタ・メイ・ブラウン、ガートルート・スタイン、ジューン・アーノルド、イザベル・ミラー、メイ・サートン、モニク・ウイティグのような小説家である。

オリビア・レコード、私たちのレコード会社の音楽家たちの目的は、質の高い私たちの音楽をレコーディングして、広く手に入れられるようにすることと、私たちのレコーディングのチャンスを与え、技術的な訓練を提供し、そして他の分野をレコード産業に関連させていくことである。オリビア・レコードのミュージシャンとしては、メグ・クリスチャン、リンダ・デイレイ、クリス・ウイリアムソン、メリー・ワトキンス、テレサ・チュール、ウイリー・タイソン、スーザン・アボットがいる。彼女たちの音楽を通じての女の文化に対する貢献は、非常に大きい。

多くのレズビアンが自分たちの人生にとって大切なことを十分に表現することができるのは、音楽を通してであることに気づいた。芸術家としては、ハーモニー・ハモンド、ロメイン・ブルックス、ケイト・ミレット、ティー・コリンがいる。

われわれは、クエスト、フォーカス、シニスター・ウイスタム、フェミナリー、コンデイションズの雑誌を発行している。新聞としては、オフ・アワ・バックス、ビッグママ・ラグ、ゲイ・コ

コミュニティ・ニューズ。通信としては、マトリシス、レズビアン アイディアを交換しあうレズビアン・コネクションなどがある。

(音楽、変わる)

かぐら レズビアンについての根拠の確実な情報が、われわれ自身によって出版されつつある。ジニー・ビダは、レズビアンについて、もつとも価値ある調査を、彼女の作品『愛するわれわれの権利』のなかで集めた。われわれがかつて生き、そして今も生きている、その誇りに足る歴史にもかかわらず、われわれの多くは、われわれが何者であるのか、知らせることを恐れている。

このスライドのなかで、われわれのレズビアンとしての自己確認を祝福するために参加した女たちは、この国の数百万にのぼるレズビアン代表者である。われわれのある者にとっては、自分を公にすることは容易なことではなかった。ある意味では、われわれすべては、このスライドを生み出すために代価を支払った。家族、友人、雇い主、隣人からの拒絶は、しばし経験することであった。しかし、この最初の拒絶は、受け入れることに変わった。

人々が、われわれがどこにでもいる当たり前の女たちであり、誰もがわれわれの何人かを知っているということを理解したとき、われわれを不当に貶めていたこれらの誤解は、次第に真実味を失っていくであろう。さらに多くの女たちが隠れることをやめたとき、さらに多くの母や父、お

じ、おばたちは、レズビアンは誇り高き女たちであることを知るであろう。

異性愛者が、かれら以外の生き方の正当性と、レズビアンの異なる生き方がともなう複雑性を理解したとき、かれらはわれわれを支持する大きな力の源になるだろう。しかし、よりよい人生を築きあげる責任は、われわれ自身にある。多くのレズビアンが隠れていることは、われわれのすべてにとって損失である。レズビアンとしての誇りは、不当ではない。われわれが熱望するのは、勇気ある行動である。

（音楽、歓声）